

刊夕 日四十二月二



日刊日曜日曜日曜
日休刊一ヶ月廿五日
印刷十五部一紙二張
廣告料 一行四十
場所指定 二十行
發行所 牛谷政
福島縣平野町三
新いむき新聞社

常識講座

トレイラーは自動車に
連結して引張られる車
のことだ。軍用のトラ
ックや鐵道省營バスに
見られてゐるのである
が最近では二台連結の
流線型バス・トレイラ
ーが出来てきてゐる。

非常によく前者は三、四十名
後者は二十名を数へられる。
従来の卒業生は上級進學か
家庭に入るものと限られて
ゐる。

わたが今年の如く一割以上
が職業職線に躍り出すとい
ふことは注目すべき現象で
ある。

二十四日平△二十五日一三
月一日内郷△一日三日草
野△二、三日湯本△二十二
日二十六日勿來△二十七
日一三月一日錦△二、三日
植田△四、五日夏井△六、
七日神谷△八日一十一日平
窪△十二日一十五日好間△
四日湯本△五、六日磐崎△
七日一十日小名濱△十一、
十二日玉川△十三日一十
五日江名△四日一六日植田
△七日一九日山田△十日一
十二日上遠野△十三、四日
川部△十五、十七日泉△十
六七日豊岡△十八日一二十
日高久△十八日一二十日渡
邊

第二校雛祭り
第二小學校では來月三日の雛
祭り桃の節句に例年の通り各
學級に雛壇を設け、學級毎に
小學總會を併し、あたしたち
の桃の節句を祝ふ筈

女子青年總會
來月五日開く
石城郡聯合女子青年團では地
久節祝賀をかね來月五日平館
で總會を開催の豫定、講演
映畫の催しがある

産繭處理統制の實施
縣と蠶糸家の三すくみ

來る春蠶期を控いて焦る
興味視される其の成ゆき

産繭處理統制の實施は今春蠶
期の切迫と共に蠶糸製糸家兩
者の何れも從來の市場取引改
組を差込み非常な關心を拂は
れてゐるが本縣關係二十二ヶ
工場製糸家側では特約取引
に對する當局の指導方針は實
際の事情と甚だしき懸隔があ
り蠶糸業の進路を阻むもの
として現状に鑑み無理なきを
望まれ縣もまた此の點に相當
の考慮あるものゝ如くであつ
て蠶糸兩者の業の上から云へ
ば製糸家を離れて養蠶家が立
たず養蠶家なしに製糸業を營
み得ない不可分關係にありな

更に研究の上
正式に交渉する

赤井部落平町編入に關し
きのふ両町代表が懇談

既報：赤井村大字赤井部落の
平町への編入希望をもちし
草野縣議外部代表三名が二
十三日午後平町を訪れ青沼町
長と懇談的協議を行つた
赤井部落は八百戸、三千三
百の人口を有し平町に隣接
する關係上、種々な點で平
町に合併することが便利で
あり部落民もそれを望んで
ゐるので此際編入したいと
いふのである

日立見習工合
格者

平町職業紹介所ではさきに茨
城縣助川町日立製作所海岸工
場見習工募集試験を行つたが

四月一日めざし
町役場徹夜の陣

關係々員轉手古舞
勲章授與

磐中比佐教官
勲章授與

親不孝者公判

平窪出納検査

豚丹毒豫防

北村技手來郡

青沼町長出福

横尾主任着任

平窪豫算村會

縣案の平窪村全組合併も解決
し去る二十一日の町會で市制
施行案を可決した平町では市
制施行規定に基づき直ちに必
要書類を取まとめ縣を経て内
務大臣へ上申の手續きを取り
來る四月一日には町の看板を
はづして平市の新しい看板
をかゝげるべき意氣込みで目
下各部係を整理資料蒐集取ま
とめに大奮で關係係員は數
日來ほとんど夜業に夜業を重
ねてゐる有様である町から市
へ……産みの痛みに頭を痛め
た町當局首脳部にはかつて今
度は關係々員が書類整理に町
民に知られぬ苦勞をこらして
ゐる

勿來町水野家弘 平町大槻
經之介 夏井村青木忠代
平町古川繁八郎 相馬郡鹿
島村小野田正重 田村郡飯
豊村大方伍郎 玉川村山野
邊實 同小泉文明 磐崎村
齋藤利男 玉川村永山昌克

平窪前廣場の舗裝計畫は漸く
具体化しかねて水戸運輸事務
所で準備中であつたが今二十
四日同事務所へ入札を行つた
ので近日着工の運びとならう
工費は大體五千圓で舗裝面積
千八百八十一平方メートルはト
ベカ式アスファルトコンクリ
ート來月末までに竣工の豫定
だから春四月平町の市制施行
と共に市の立派な立派にお
化粧が完成されることになる

平町豫算町會
平町の豫算町會は二十七日午
前十時から招集、豫算の外
商業學校位置變更、區長及代
理推薦、町費起債一時借入金
その他の件を付議する

北村技手來郡
仁井田川調査の爲
縣土木課北村技手は仁井田川
設計變更のため二十三日來郡
二十八日まで滞在調査する

石城人は肉が好き
昨年中の屠殺三千頭
縣衛生課で調べた昨年中の縣
下に於ける食用獸屠殺數は
牛九百七十七頭、豚五千七百三
十一頭、細羊五十二頭、山羊
十二頭馬一千二百四十七頭合
計七千九百五頭に上つてゐる
がこれを警察署管内別に見る
と平窪が三千二百頭で断然縣
下第一位を占めてゐる

豚丹毒豫防
郡下の注射日割
本郡の豚丹毒豫防注射日割は
左の通り
△二十二日一二十四日四倉
△二十五、六日大浦△二十
七、八日大野△二十二日一

横尾主任着任
鮫川堰水利組合主任加藤技師
の後任縣耕地課技師横尾守一
氏は二十四日着任した

平窪豫算村會
平窪村の豫算村會を二十五日
午前九時から招集
三坂澤渡組合
三坂澤渡組合の豫算村會は
二十四日開いた

青沼町長出福
青沼町町長は二十五日福島市
で開かれる町村長支會總會な
らびに縣農會主催の縣下各郡
市農會代表者會に出席のため
出發

民族の推移考察
（15） 生
又、神社佛閣に奉納される
繪馬も其發生狀態の特殊性を
考究するに該敬拜思想の生成
過程的表現に他ならなく、起
源たるべき繪馬に於ては必ず

馬像を描きしものにして今日
の繪馬の如きものには無く
古代宗教觀念として神靈の用
を授けし如きが繪馬に關し
を授けし如きが繪馬に關し
を授けし如きが繪馬に關し
を授けし如きが繪馬に關し

青果市況
平中央青
果市場調（原單位）
高値 安値
葱（百把） 四〇〇 三〇〇
人参（百把） 一四〇 一〇〇
牛蒡（百把） 一〇〇 八〇
馬鈴薯（百把） 一〇〇 八〇
平（百把） 一〇〇 八〇
山芋（百把） 一〇〇 八〇
長根（百把） 一〇〇 八〇
里芋（百把） 一〇〇 八〇
蓬連草（百把） 一〇〇 八〇

江名漁業總會
江名漁業組合で來月二日定時
總會を開き規約變更の件その
他を付議

女子青年總會
來月五日開く
石城郡聯合女子青年團では地
久節祝賀をかね來月五日平館
で總會を開催の豫定、講演
映畫の催しがある

産業方面

綿羊加工處理(下) 罐詰製造

本縣立岩瀬農學に於ける研究
 こんやくは丹冊に切り水を入れずに煮るそれを立六號罐(半斤)入れに四十分詰め調味液の液に胡椒砂糖を加へ片栗は豫め水に溶かし加熱して調味液に加へたものを二十分注入する、後は九十五度の温度で三十分脱氣し殺菌は八ボンドで一時間後水で冷し乾拭ニス塗りレツテル張りで終るが家庭用ホームシーマを使用し巻絞りをなす、

製造所要經費、一個當り十錢を要し賣價は二十五錢でどんく取引される罐詰出來高百七十八個で主なる支出は醬油二圓八十六錢と空罐の八圓、レツテル一圓七十八錢あとは殆んど自家生産物で足りる、

右が岩瀬農學校の研究で出來た成績であるが岩瀬農學校の山村倉尾村でも養蠶不況の對策として昭和七年四月綿羊組合を組織し當時綿羊十九頭を青森縣から直接購入して婦人子供等の片手間仕事に飼育繁殖をはじめたところ其の努力が實つて現在では百頭に殖えて全農家二十五戸は戸毎に三、四頭の綿羊を飼育し羊毛三貫匁、自給肥料三百貫匁の收益をあげ繁殖した牝綿羊は一頭三十五圓から四十五圓、牡綿羊は十五圓から二十五圓で賣買され今では同縣下の綿羊王國の出現とさへ稱へられ更生の實績をあげてゐるが同地も目下罐詰製造等にまで下研究をしてゐると(完)

牛も豚も優良品の自慢
 肉の御 三三三屋 田町
 用命は 三三三屋

町 紺 屋 町
藤沼醫院
 電 五 〇 七 番

和久井屋
 電話四〇五番

産科、婦人科 長木村寅次郎
 外科 醫學博士 内木宗八
 藥局 藥劑師 大岩俊雄
 平町新川町九
 入院隨時 病室完備
木村病院
 電話 六四番

外科一般 内臓外科
 レントゲン科 泌尿器科
北川外科
 平町新川町二七(電話四六四)
 醫學博士 北川芳夫
 技師 小林良次
 入院デキマス
 (血液検査毎日)
 イツテモ

生徒募集
 一、本科五十名 二、裁縫専修科百名
 三、専攻科三十名 四、師範科二十名
 五、本科裁縫専修科第二學年補缺若干名
 六、洋裁科若干名
 文部大臣 藤田女學校
 認可
 一、願書受付三月三十日マデ
 二、詳細ハ學則其他請求ノ事
 平町田町(電話三二八)

便利で 經濟な
日下家政婦會
 派出婦を御利用下さいませ
 身元確かで品行方正ですから
 何をお任せしてもご安心です
 平町字田町十八(西村屋横町)
 會長 日下すい子
 電話 七二三番

産科、婦人科
根本醫院
 平町南町五二 電話三四番
 入院隨時 手術室完備
 根本 貞雄
 根本 次郎

サロンのエビ料理を
 始めました
 サロンベニス(天ぷら)
 三十錢
 ベニエライス(天井)
 三十五錢
 ごろご御試食を
 レストラン サロン
 電話三五二

診療科目
 一、齒科 一般
 保存科、補綴科、齒科工科、齒列矯正科、小兒齒科、發育障礙科
 二、口唇外科
 レントゲン科
中野齒科醫院
 院長 日本齒科 中野 惠次
 醫學士 西川 誠
 平町田町(松月堂向ひ) 電話五〇九番

診療科目
 一、口唇外科、補綴科、保存科、齒列矯正科、小兒齒科、(其他齒科一般)
 毎日晝夜診療
 日曜午後休み
齋藤齒科醫院
 平町田町(藤田女學校前)
 醫學士 齋藤 賢三

生徒募集
 文部大臣 可
平陽女學校
 一、科外生、洋裁科若干名
 一、入學願書提出 三月三十一日まで
 一、新學期開始 四月一日より
 學則則學案內書御申込により差上げます
 平町 電話四四番

和洋銅鐵、金物問屋
益屋商店
 九九・九電

安流丸
 安田系統の帝國海上
帝國海上火災保險株式會社
 平代理店 關内 電話一六番
 事務取扱者 阿部 助次郎